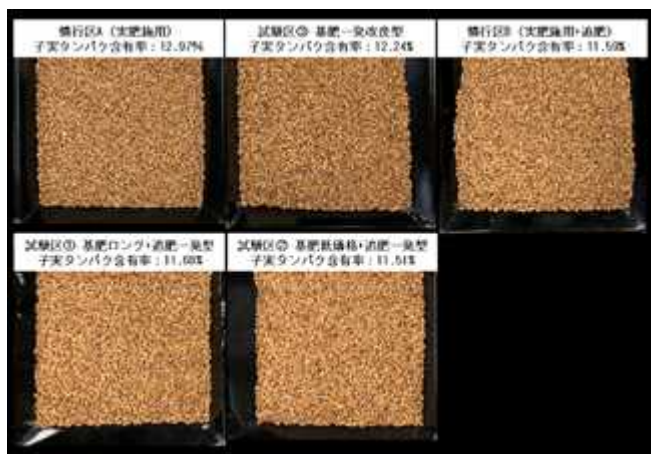


令和3年8月

普及活動報告

～小麦の実肥負担軽減に向け実肥無施用の新体系（改良基肥一発型と追肥一発型）を検討～ (2日)



【子実タンパク含有率と小麦外観の様子】

- ・左上から右下にかけて、子実タンパク含有率は高い
- ・外観が濃い（褐色が強い）ほど子実タンパク含有率が高い傾向

南丹普及センターでは現地の要望に応えるため、小麦の実肥負担軽減に向けた現地実証に取り組んでいます。本年は、昨年試作した基肥一発型肥料の改良に加えて追肥一発型の新たな施肥体系を検討し、小麦品質への影響を確認するため、子実タンパク含有率を測定しました。

改良基肥一発型の試験区では、子実タンパク含有率が目標の12%に到達し、追肥一発型の試験区でも11.5%と慣行区と同程度の数値が得られました。普及センターは、今回の施肥技術が早期に実用化・普及できるよう、現地実証を拡大し技術確立に努めます。

場 所 農林センター及び生物資源研究センター

令和3年 小麦新品種「せときらら」栽培面積（南丹管内）：約49.5ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年8月

普及活動報告



農機の安全操作について講義



実演によるメンテナンス手法の説明

～農業機械の安全使用とメンテナンスの手法を学ぶ～第3回京都丹波就農サポート講座を開催 (3日)

第3回講座では、日々の農作業の中で取り扱う機会が多い農機具の安全な操作方法やメンテナンスの仕方等について学びました。

農機メーカーから主要な農業機械の安全使用方法についての講義を受けた後、2班に分かれて、トラクター、草刈り機等の実物を見ながら操作方法やメンテナンス手法、注意点等について説明を受けました。

受講生からは、「大変参考になった」「本日教えていただいたことを活かし、少しでも機械の寿命を延ばしたいと感じた」等の感想が寄せられました。

普及センターは、今後も新規就農者の農業基礎技術や経営感覚の習得について支援していきます。

場 所 全農中部物流センター
出席者数 28名

7月26日(月)には園部総合庁舎にて第2回講座(管内農業の概要・水稻栽培の基礎・病虫害防除)を実施。講座回数:全6回(11月8日まで)を予定

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年8月

普及活動報告

環境にやさしい農法の効果を確認

～ 水田内の指標生物を調査 ～

(亀岡市：5日)



1 ほ場 2 か所調査

環境保全型農業直接支払交付金による環境保全効果（生物多様性保全効果）を把握するため、指標生物の調査を行いました。

今回は、環境保全型農業直接支払交付金を活用して環境にやさしい農法を実践している水田と、慣行栽培の水田で、アシナガグモ類の調査を行いました。

調査の結果、環境にやさしい農法を実践している水田の方が、慣行よりもアシナガグモ類が多いことを確認しました。

場 所 亀岡市大井町、蔞田野町



捕虫網の上部が草丈先端に触れる高さで振る

アシナガグモ類の他、サギ類や指標植物の調査も実施

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年8月

普及活動報告



刈り取り前の成熟期調査



イネの刈り取りとラッピング

そばとの二毛作を実証～WCS用イネ 「夢あおば」の刈り取りが終了～

(京丹波町：11日)

WCS用イネとそばとの二毛作を実証し、耕畜連携を進めていく取組みの第一弾、WCS用に栽培されていたイネ「夢あおば」の刈り取りが終了しました。適期の刈り取りができ、収量も早生の平均よりも多く、順調に取組みが進んでいます。

事前の害虫対策指導により、品質の良いものが適期に収穫でき、「水田の管理も的確で、量も品質も問題なく、適期に収穫できた。この後のそばの栽培に期待したい」との声が聞かれました。普及センターでは今後、そばの生育状況等を確認していく予定です。

場 所 京丹波町実勢

出席 10名

実証ほ場面積35.5a 33ロール (9.3ロール/10a) 分を収穫
(早生平均7～8ロール/10a)

京都府南丹農業改良普及センター